

39 サツマイモを育てよう

黒マルチで成長を促進

サツマイモはヒルガオ科に属し、中央アメリカ原産です。雨の少ない熱帯地域で生育することから、高温や乾燥に強く、やせた土地でもよく育ちます。栄養面では、カリウム（むくみ改善）やビタミンC（美肌）、食物繊維（整腸作用）を豊富に含む健康野菜です。

①畑の準備

植え付けの2週間前までに1平方メートルあたり苦土石灰50グラムを施し、土をよく耕します。その1週間後に、1平方メートルあたり堆肥2キログラム、からいも用化成肥料（成分5・10・15）100グラムを施して耕し、幅が80～90センチの畝（床幅50～60センチ、通路30センチ）を作ります。排水の悪い場所では、生育不良になりますので30センチ程度の高畝にします。

②苗の植え付け

晩霜の心配のない4月中旬から6月中旬ごろまで植えられます。植え方は水平植えと斜め植えがあり、いずれも先端の3枚程度の葉は土から出し、水平植えは、5センチ程度の深さで水平に植え付け、斜め植えは、45度程度の角度に斜めに植え付けます。株間は30センチ程度とします。植え付け後は、かん水して活着を促します。

③マルチ

黒マルチを使用すると、植え付け後の発根・活着を促進するほか、防草、養分保持、保水などの効果があります。

④除草、追肥

ツルが伸びてくると雑草も生えてきます。ツルが畑を覆うまでは除草します。追肥は基本的にしませんが、葉が黄色くなったら1平方メートルあたり化成肥料（成分8・8・8）を10グラム施します。

⑤病虫害防除

害虫はナカジロシタバ、ハスモンヨトウなどが発生します。見つけたら捕殺します。近年、県内では葉が黒変し、イモが腐敗する基腐（もとぐされ）病が発生しています。発生圃場では、輪作や苗の消毒、圃場の排水をとるなど対策を行います。

⑥収穫

夏から秋にイモの肥大期を迎え、植え付け後120～150日程度で収穫を迎えます。株元のツルを切り、スコップなどで周囲を掘り起こし、ツルごと引き抜き収穫します。

⑦ツルボケに注意

窒素肥料のやりすぎはツルばかり成長して、いわゆるツルボケ状態になり、イモは大きくなりません。やりすぎに注意します。



（鹿児島市都市農業センター）